

9条連 ニュース

No.343

憲法9条—世界へ未来へ 連絡会

Peace Constitution League

Since 1995.8.15

2023年9月20日 毎月1回 20日発行 1997年4月14日第3種郵便物認可

主な記事

巻頭言 石塚 聡	1
メディアが政治の手先となる恐怖 砂川浩慶	2,3
「無実の死刑囚・袴田巖さんを救う会」 門間幸枝さんに聞く	4,5
三多摩9条連平和イベント開催 奥村隆夫	6
映画紹介 朝倉 亮	6
政治展望台 58 高野 孟	7
本の紹介	8
アーティクルナイン	8

代表 浅井基文／浅野健一／植野妙実子／小倉英敬／C・ダグラス・ラミス
常岡せつ子／中山弘正／樋口陽一／山家悠紀夫

〒141-0031 東京都品川区西五反田3-2-13

目黒さつきビル303号

TEL 03-5747-9994

FAX 03-5747-9919



ホームページはこちら

<https://9joren.net/> E-mail: 9joren@ams.odn.ne.jp 創刊号1995年1月20日発行 定価100円 年間購読料1,500円(郵送料含む) 郵便振替口座 00160-2-96579「9条連」

1941年12月8日、日本海軍の空母機動部隊が突然ハワイの真珠湾攻撃は見事に成功したが、宣戦布告前の奇襲攻撃がアメリカの強い怒りを買った。日本は壊滅的な打撃を受けることになる。敵基地攻撃（能力）がまさに取り返しのつかない結果を招いた。

最近、「抑止力」と言えば水戸黄門の紋所よろしく、何でも許される雰囲気になっている。また「敵基地攻撃能力」を「反撃能力」と言い換えたことで、国際法に反する先制攻撃が許されるような空気がさえる。ウクライナの惨状を見ているからか、「台湾有事」を煽られているからなのか、皆が「やられる前にやっつけてしまえ」という感覚になってしまった。

読売新聞の世論調査（22年11月6日）では、「敵基地攻撃能力」の保有に賛成の人が52%、反対が41%、朝日新聞の調査（22年12月19日）では賛成が56%、反対が38%であった。防衛費の増強について尋ねた毎日新聞の調査（22年5月24日）では、「大幅に増やすべき」が26%、「ある程度増やすべき」が50%で、8割近い人たちが軍拡を支持している。政府

のプロパガンダが功を奏しているのか、メディアの戦争報道が不十分なのか、国民のリテラシーが低下したのかは定かでないが、いずれにしても漠然とした恐怖心を抱いていることは間違いない。

そこで注意すべきは、「備えあれば憂いなし」という考えである。それは台風や地震の時の話ならばいいが、国際紛争の解決には当てはまらない。「攻撃こそ最大の防御」だと考えているのなら、安全保障のジレンマに陥ってしまう。軍拡競争が世界に危機をもたらしたことは、すでに経験済みである。

8月8日、自民党の麻生副総裁は、「台湾有事を未然に防ぐためには、日、台、米をはじめとした有志の国に、非常に強い抑止力を機能させる覚悟が求められている。戦う覚悟だ」



石塚 聡

絶対に戦わない 覚悟

と言って戦争を煽った。これは失言というレベルではなく、明らかに暴言だ。こうした挑発は何ら抑止力にならないどころか、抑止とは正反対の方向に動いてしまう。しかも、政府内部も含めて調整したうえでの発言だというのが、バカも休み休み言え！と言いたくなる。

台湾が独立を目指す限り限り中国が侵攻することはないと、私は思う。しかし、「中国は香港の民主主義を壊したではないか」と、反論する人もいるだろう。確かに、それは反論に値するし、可能性はゼロではないと思う。しかし、その時でも、日本は中国の内政に干渉することはできない。日本と台湾は国交もないし、軍事同盟も結んでいないので、一緒に戦うことはできない。できるとすれば、台湾の避難民を日本に受け入れることであろう。でも、香港から、ミャンマーからも、難民を受け入れていないこの国に、その覚悟があるだろうか。「戦う覚悟」なんておこがましいことを言う前に、様々な国と様々なレベルで話し合いをすることだ。いま必要なのは外交であり、「絶対に戦わない覚悟」である。

いしづかさとし／マスコミ市民フォーラム理事長 岩手大学教育学部招聘講師